

県内経済は、依然として厳しい状況が続く中、雇用情勢に改善の動きがみられるが、個人消費は弱含み、生産活動で回復鈍化の動きが窺われるなど、持ち直しに足踏み感がみられる。

1. 平成22年12月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額（全店舗ベース）は、飲食料品、衣料品等の販売が振るわず、合計では6ヵ月ぶりに前年を下回った。乗用車新車販売は、補助金終了により各部門とも大幅に落ち込み、4ヵ月連続で前年を下回った。生産活動は、鉱工業生産指数（原指数）が12ヵ月連続で前年を上回るなど回復を続けているものの、電力需要などとともに鈍化の動きが窺える。投資動向をみると、公共工事前払保証取扱は、請負金額が4ヵ月連続で前年を下回った。建築着工（民間・非居住用）は、棟数が2ヵ月ぶりに前年を上回った。新設住宅着工戸数は、持家が前年を上回ったものの、貸家、分譲が前年を下回り、合計では2ヵ月ぶりに前年を下回った。負債金額10百万円以上の倒産件数は、2ヵ月連続で前年を下回り、負債総額は6ヵ月連続で前年を上回った。雇用情勢は、依然として厳しい状況にあるものの、有効求人倍率、新規求人倍率とも概ね改善の動きがみられる。

〔消費動向・弱含み〕

大型小売店販売額（全店舗ベース）は、主力の飲食料品、衣料品等の販売が振るわず、全店舗ベースで228億92百万円（前年同月比△1.3%）と6ヵ月ぶりに前年を下回った。乗用車新車販売は、エコカー補助金終了により普通車、小型車、軽乗用車とも大幅に落ち込み、合計では4ヵ月連続で前年を下回った。消費者物価指数は、前月比0.6%下降し、2ヵ月連続で前月を下回った。また前年同月比では0.8%下降し、23ヵ月連続で前年を下回った。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、エコポイント制度の見直し（ポイント半減等）から、薄型テレビ、冷蔵庫、エアコンの販売が大幅に減少し、パソコン、デジカメ、携帯電話などは堅調に推移したものの、合計では前年を大きく下回った。ホームセンターは、節約志向が続く中で、家庭用品、収納用品等は堅調に推移したが、暖房用品や灯油など冬用商品の販売が低迷し、合計では前年を下回った。旅行取扱額は、国内団体ならびに海外個人が好調に推移し、合計では前年を上回った。

〔投資動向・一部に持ち直しの動き〕

12月の公共工事前払保証取扱は、件数が8ヵ月連続で、請負金額、保証金額は4ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。11月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が2ヵ月ぶりに前年を上回り、床面積、工事費予定額は5ヵ月連続で前年を上回った。12月の新設住宅着工戸数は、貸家、分譲が前年を下回り、合計では2ヵ月ぶりに前年を下回った。

〔生産活動・回復鈍化〕

11月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は、89.1（前月比+1.4%）と3ヵ月ぶりに前月を上回り、原指数は95.6（前年同月比+3.9%）と12ヵ月連続で前年を上回ったものの、回復鈍化の動きがみられる。12月の大口電力販売量は、前年同月比+4.0%と13ヵ月連続で前年を上回ったが、勢いは鈍化傾向にある。

〔企業倒産・横ばい〕

負債金額10百万円以上の企業倒産状況は、倒産件数が2ヵ月連続で前年を下回り、負債総額は、6ヵ月連続で前年を上回った。

〔金融動向・貸出金鈍化〕

12月末の預金残高は前年同月比+2.4%と46ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は同△0.2%と14ヵ月連続で前年を下回った。

〔雇用動向・改善の動き〕

有効求人倍率（季節調整値）は、0.47倍となり2ヵ月連続で前月を上回った。原数値では0.51倍となり、9ヵ月連続で前年を上回った。新規求人倍率（季節調整値）は、0.80倍となり、2ヵ月ぶりに前月を上回った。原数値では0.84倍となり、11ヵ月連続で前年を上回った。

県内経済動向の概要

	項目	前年同月比			前月比		
		22年10月	11月	12月	22年10月	11月	12月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	乗用車新車登録台数	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	消費者物価指数（総合）	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	建設着工棟数（民間・非居住用）	⇒	⇒	—	⇒	⇒	—
	新設住宅着工戸数	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	⇒	⇒	—	⇒	⇒	—
	大口電力販売量	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
企業倒産	企業倒産件数注2	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	企業倒産金額注2	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
金融動向	預金	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	貸出金	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注3	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	新規求人倍率（パート含む）注3	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒

良化 ⇒ 良化傾向にあるがほぼ横這い ⇔ 悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇐ 悪化 ⇨

注1：前月比は季節調整値、前年同月比は原指数。注2：負債総額10百万円以上。注3：前月比は季節調整値。前年同月比は原指数。

2. 県内経済動向

消費動向

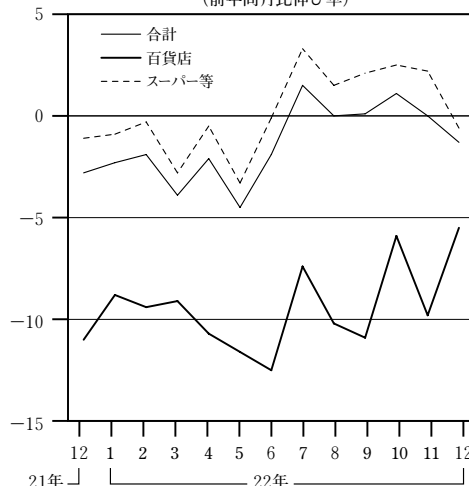
大型小売店 12月の県内大型小売店の販売額は、雇用・所得環境が依然厳しい中、家具・家電・家庭用品等が前年を上回ったものの、気温の影響で衣料品が振るわなかったほか、食料品も低調に推移し、全店舗ベースで228億92百万円（前年同月比△1.3%）と6ヵ月ぶりに前年を下回った。既存店ベースでは同0.6%減と3ヵ月ぶりに前年を下回った。（注：既存店とは調査月において当月と前年同月でともに存在した事業所の数値。）

業態別に内訳をみると百貨店は、衣料品が主力の婦人服など軒並み低調に推移したほか、飲食料品、身の回り品も振るわず、全店舗ベースで34億11百万円（同△5.5%）と、40ヵ月連続で前年を下回った。一方、既存店ベースでは前年同月比3.5%増となり、3ヵ月連続で前年を上回った。

スーパーは、主力の飲食料品の売上が前年を上回ったほか、家具・家庭用品なども伸びたものの、衣料品が低迷、全店舗ベースでは194億81百万円（同△0.6%）と6ヵ月ぶりに前年を下回った。また既存店ベースでは同1.3%減と、3ヵ月ぶりに前年を下回った。

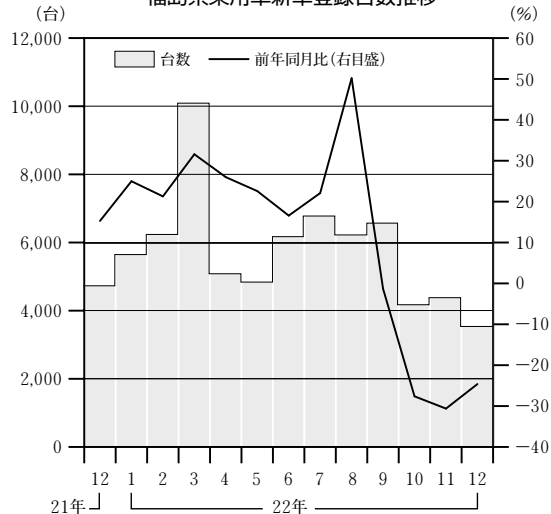
乗用車販売 12月の乗用車新車登録台数（ナンバーベース）は、合計で3,607台（前年同月比△24.6%）と、エコカー補助金終了により各部門

福島県大型小売店販売額（全店舗）
（前年同月比伸び率）



（資料：経済産業省）

福島県乗用車新車登録台数推移



（資料：㈱日本自動車販売協会連合会福島県支部）

とも大幅に減少し、4ヵ月連続の前年割れとなった。車種別で見ると、普通車は990台（同△31.6%）と3ヵ月連続で前年を下回った。小型車は1,242台（同△31.4%）と4ヵ月連続で前年を下回った。軽乗用車は1,375台（同△9.7%）と3ヵ月連続で前年を下回った。

12月の乗用車中古車販売台数（軽自動車は名義変更を含む）は、合計で8,841台（前年同月比△0.4%）と5ヵ月ぶりに前年を下回った。車種別にみると普通車は2,554台（同+2.0%）と5ヵ月連続で前年を上回った。小型車は3,358台（同△4.2%）と5ヵ月ぶりに前年を下回った。軽乗用車は2,929台（同+2.2%）と3ヵ月ぶりに前年を上回った。

消費者物価指数 12月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成17年=100）で見ると、99.2（前月比△0.6%）となり、2ヵ月連続で前月を下回った。前年同月比では0.8%下がり、23ヵ月連続で下降した。

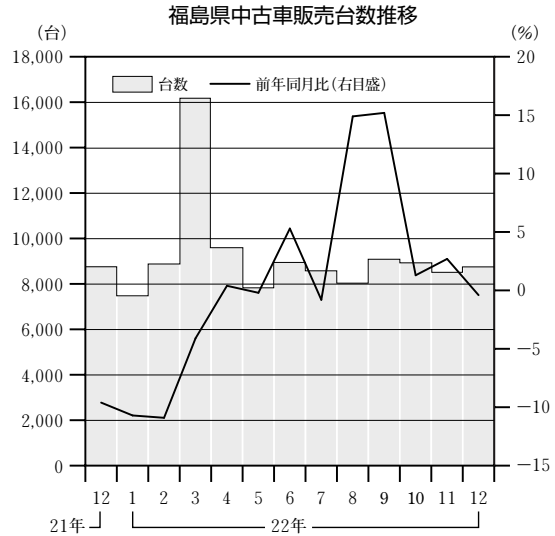
費目別の指数動向をみると、「教養娯楽」が94.1（同+0.3）、「交通通信」が97.8（同+0.2%）と2費目で前月比上昇した。一方、「食料」が102.7（前月比△2.1%）、「被服及び履物」が103.6（同△0.9%）、「家具・家事用品」が90.6（同△0.8%）、「保健医療」が95.6（同△0.6%）、「諸雑費」が107.9（同△0.1%）、「住居」が96.9（同△0.1%）と6費目で前月比下降した。また、「光熱・水道」は106.6、「教育」は82.9となり、前月と同じであった。

家電量販店 12月の売上状況は、エコポイント制度の見直し（ポイント半減等）の影響から、薄型テレビを始め冷蔵庫、エアコンなどが大幅に減少し、パソコン、デジカメ、携帯電話などは堅調に推移したものの、合計では前年を大きく下回った。

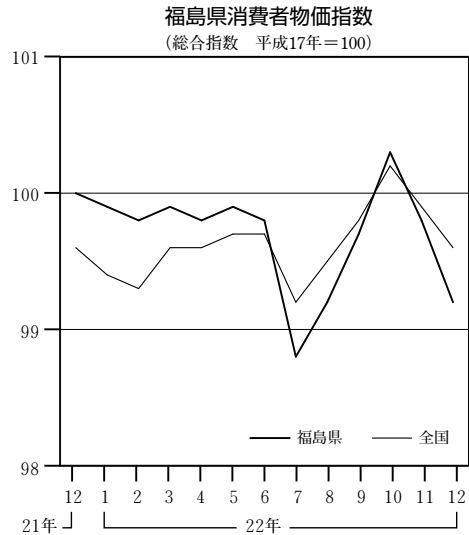
ホームセンター 12月の売上は、節約志向が続く中、家庭用品、収納用品等は堅調に推移したものの、暖房用品や灯油など冬用商品の販売が低迷し、植物、ペット関連なども伸びず、合計では前年を下回り推移した。

旅行 12月の旅行取扱額実績は、国内団体ならびに海外個人が好調に推移し、合計では前年を上回った。

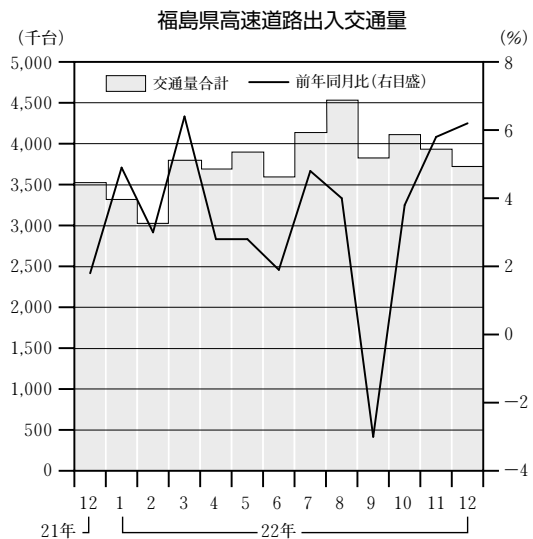
高速道路 12月の県内自動車道出入口台数は、「ETC



(注) 軽自動車は名義変更台数含む
資料：(社)日本自動車販売協会連合会 福島支部
(社)全国軽自動車販売協会連合会



(資料：総務省統計局)



(資料：東日本高速道路(株)東北支社)

割引制度」の効果などから、3,757,832台（前年同月比+6.2%）と3ヵ月連続で前年を上回った。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,222,558台（同+6.2%）と13ヵ月連続で前年を上回った。磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は258,368台（同+9.1%）と10ヵ月連続で前年を上回った。磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は488,324台（同+2.2%）と2ヵ月連続で前年を上回った。常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）は788,582台（同+8.0%）と3ヵ月連続で前年を上回った。

福島空港 12月の福島空港国内定期路線の利用状況は、13,999人（前年同月比△3.7%）と前年を下回った。路線別にみると、札幌便は5,474人（同△11.7%）、大阪便は8,525人（同+2.3%）となった。一方、国際定期路線の利用状況は、2,904人（同△12.5%）と前年を下回った。路線別にみるとソウル便は1,852人（同△24.2%）、上海便は1,052人（同+20.5%）となっている。

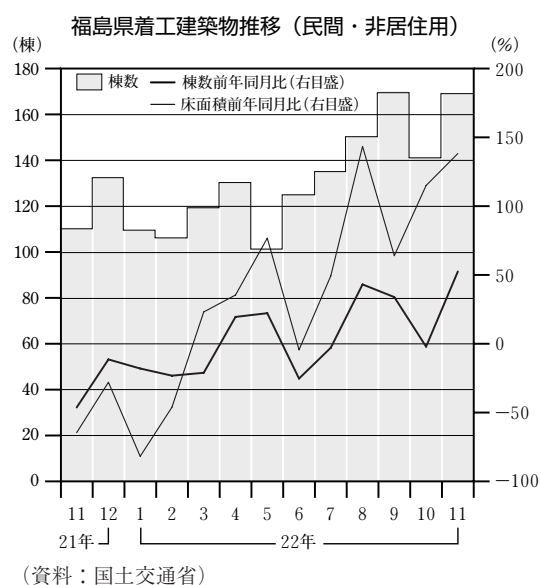
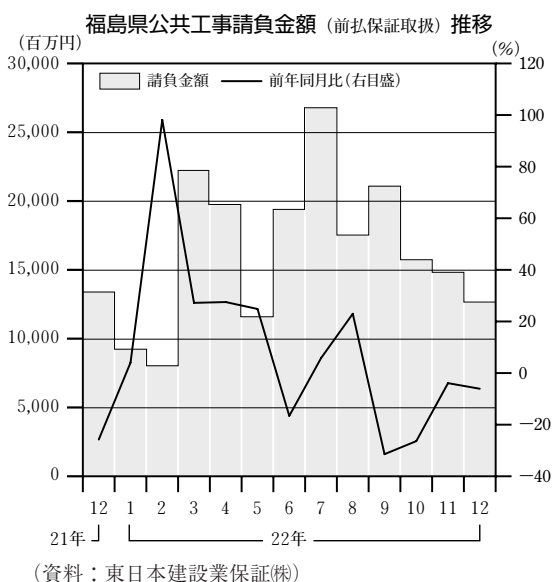
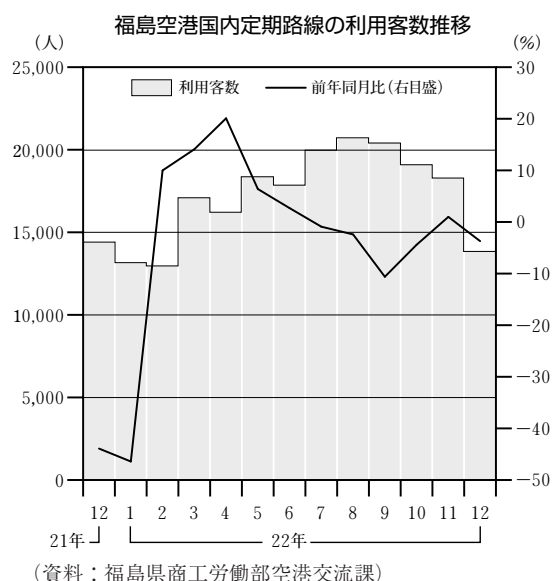
—— 投資動向 ——

公共工事 12月の公共工事前払保証取扱は、件数が565件（前年同月比△23.0%）と8ヵ月連続で前年を下回った。請負金額は126億80百万円（同△6.0%）、保証金額は43億61百万円（同△19.5%）となり、それぞれ4ヵ月連続で前年を下回った。

なお、年度累計（2010年4月～12月）では、件数が前年同期比656件減少し、5,197件（前年同期比△11.2%）、請負金額が同89億96百万円減少し、1,596億77百万円（同△5.3%）、保証金額が50億28百万円減少し、592億24百万円（同△7.8%）となっている。

12月の主な発注者別の請負金額は、国が前年比8億53百万円減少し、4億71百万円（同△64.4%）となった。独立行政法人等（東日本高速道路㈱など）は同2百万円減少し、9億11百万円（同△0.2%）となった。県は同21億30百万円増加し、68億37百万円（同+45.3%）となった。市町村は同19億10百万円減少し、42億23百万円（同△31.1%）となった。

設備投資 11月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が170棟（前年同月比+53.2%）と2ヵ月



ぶりに前年を上回った。床面積は55,468㎡（同+138.9%）、工事費予定額は93億27百万円（同+170.3%）となり、それぞれ5ヵ月連続で前年を上回った。

12月の建築物確認件数（計画変更を除く）は、695件（前年同月比+2.4%）と2ヵ月連続で前年を上回った。建築物別にみると、1～3号建物（一定規模以上の建築物が対象）は128件（同△1.5%）と7ヵ月ぶりに前年を下回った。4号建物（小規模な木造・非木造住宅などが対象）は567件（同+3.3%）と2ヵ月連続で前年を上回った。「構造計算適合性判定合格件数」は11件と前月比2件増加し、2ヵ月ぶりに前月を上回った。

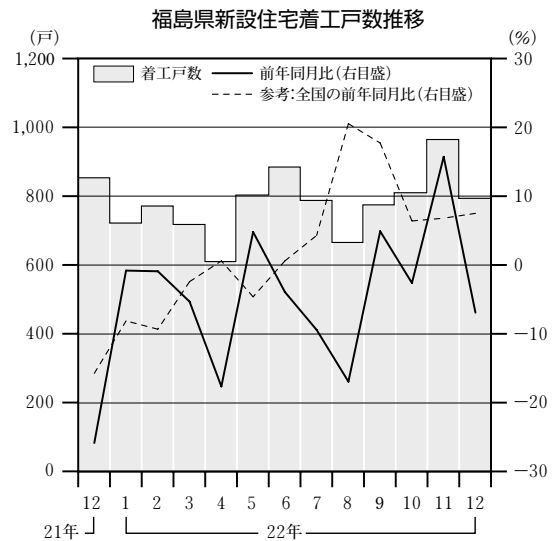
建築物着工の先行指標である12月の建築物申請件数は、654件（同+5.0%）と2ヵ月連続で前年を上回った。建築物別にみると、1～3号建物は127件（同+10.4%）と6ヵ月連続で前年を上回った。4号建物は527件（同+3.7%）と2ヵ月連続で前年を上回った。「構造計算適合性判定申請件数」は10件と、前月比2件減少し、2ヵ月連続で前月を下回った。

住宅建設 12月の県内新設住宅着工戸数は、798戸（前年同月比△6.9%）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。主な利用関係別にみると、「持家」は450戸（同+11.4%）と2ヵ月連続で前年を上回った。「貸家」は297戸（同△23.8%）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。「分譲」は49戸（同△9.3%）と3ヵ月ぶりに前年を下回った。うちマンションの着工戸数は、3ヵ月ぶりにゼロとなった。

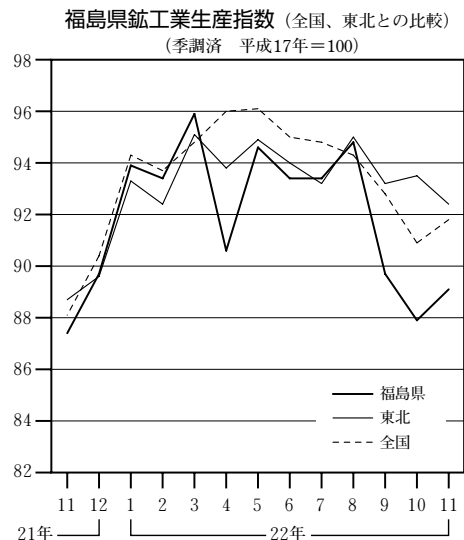
生産活動

鉱工業生産指数 11月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると89.1（前月比+1.4%）となり、3ヵ月ぶりに前月を上回った。原指数は95.6（前年同月比+3.9%）となり、12ヵ月連続で前年を上回った。

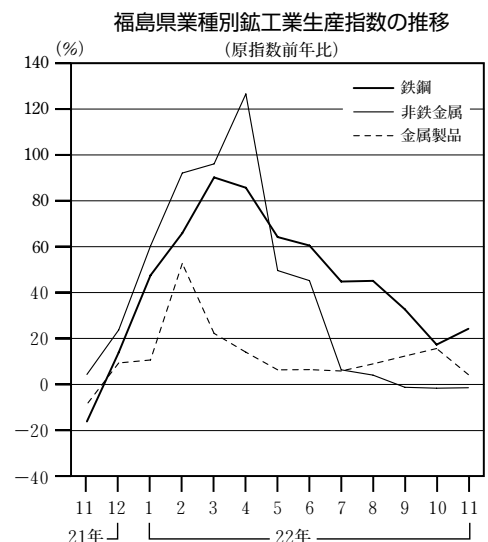
上昇および低下した主な業種別（季節調整済指数）では、食料品・たばこ工業で59.1（前月比+10.5%）、鉄鋼業で76.9（同+8.8%）、窯業・土石製品工業で82.7（同+6.7%）など10業種で上昇した。一方、繊維工業で44.4（同△21.4%）、印刷業で52.7（同△13.2%）、金属製品工業で



(資料：国土交通省)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)

68.0（同△6.6%）など10業種で下降した。

化学 12月の食品包装フィルム用合成樹脂やフッ素樹脂、金属代替プラスチック、炭素繊維の生産は好調を持続、医薬品も堅調な動きが続いている。酸化チタン（白色顔料、自動車用塗料向け）の生産は好調、バリウム化合物（電子部品原料）の生産は、持ち直しの動きが続いている。

鉄鋼・金属 12月の伸銅品の生産は、半導体向け電子材、自動車向け端子材とも前年を下回り推移した。建機用鋳造品の生産は、新興国向けが牽引し、前年を大きく上回り推移した。車両用鋳造品は、JR 在来線の更新需要等に支えられ、堅調に推移した。船舶用バルブ部品および陸上プラント用バルブ部品の生産は、前年並みの水準で推移した。

輸送用機械 12月の自動車用鋳造品の生産は、アジア向けが堅調、前年を上回り推移した。自動車用オイルシールの生産は、国内乗用車販売が低迷する中、ほぼ前年並みの水準で推移した。カーナビ・カーオーディオの生産は、国内向けが減少したものの、海外向けがカバーし、合計では前年をやや上回り推移した。

電気機械 12月の配電盤、変圧器の生産は低調に推移し、自動車モーターの生産は前年並みだったものの、全体では前年を下回り推移した。

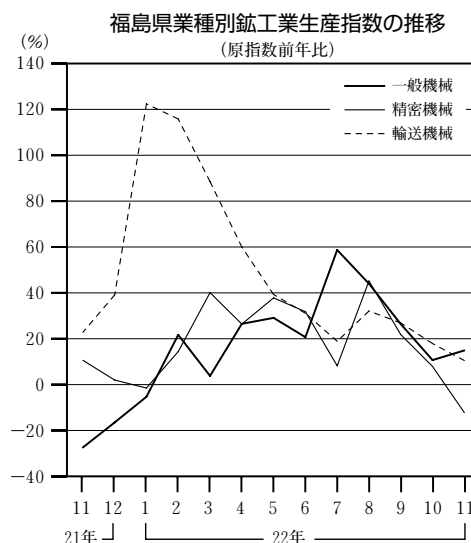
情報通信機械 12月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、主力のインド向けが低調、前年を下回り推移した。衛星通信機器関連、FA 関連機器の生産は、前年並みの水準で推移した。

電子部品・デバイス 12月のLSI（大規模集積回路）の生産は、主力のAV・ゲーム機・家電ならびに車載品が振るわず、産業機器、パソコン・OA、通信向け等製品なども低調に推移し、全体では前年を下回った。

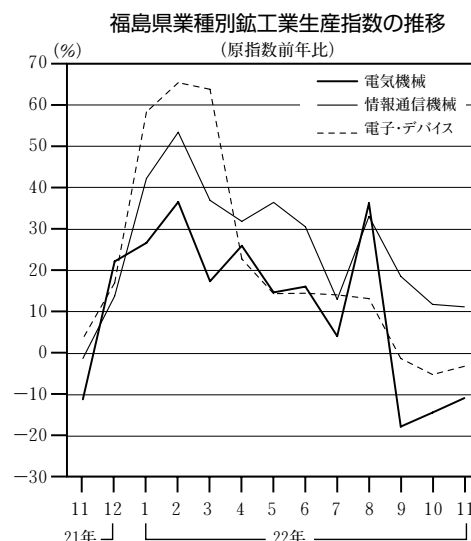
精密機械 12月の医療用内視鏡の生産は、北米向けを中心に好調に推移し、前年を上回った。デジタル一眼レフカメラ用レンズの生産は、欧米向けが持ち直し、前年を上回り推移した。

紙・紙加工品 12月のダンボールの生産は、IT向け製品が前年を下回り推移した。ノーカーボン紙の生産は、前年を下回り、感熱紙は前年を上回り推移した。

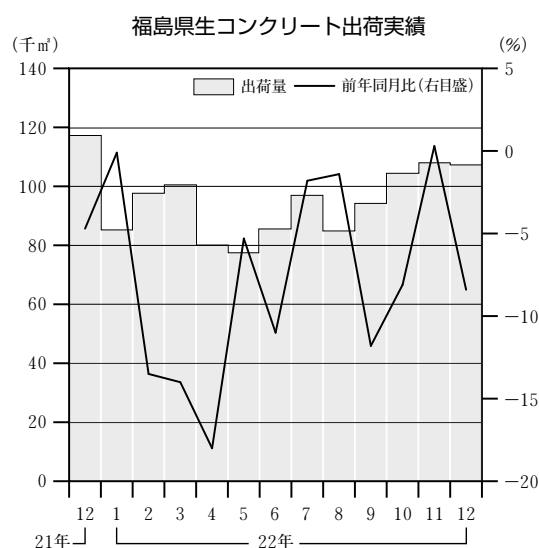
窯業・土石 12月の生コンクリート出荷量は、



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

全体で107,955m³（前年同月比△8.4%）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。増加地区についてみると、官公需では、県中地区で国道改築工事、公立学校耐震工事等により、民需では、会津地区で病院新築工事等、いわき地区で火災増設工事、観光施設増設工事等により増加した。

清酒 12月の清酒移出数量は、2,707kl（前年同月比△5.5%）と27ヵ月連続で前年を下回った。タイプ別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が1,068kl（同+1.1%）と8ヵ月ぶりに前年を上回った。一般酒（特定名称酒以外の酒）は、1,638kl（同△9.3%）と27ヵ月連続で前年を下回った。

合成繊維物 12月のナイロンの生産はダウンジャケット（表地）向けを中心に、持ち直しの動きがみられ前年を上回った。ポリエステルは、紳士服、婦人服の裏地向けなど前年並みの水準で推移した。

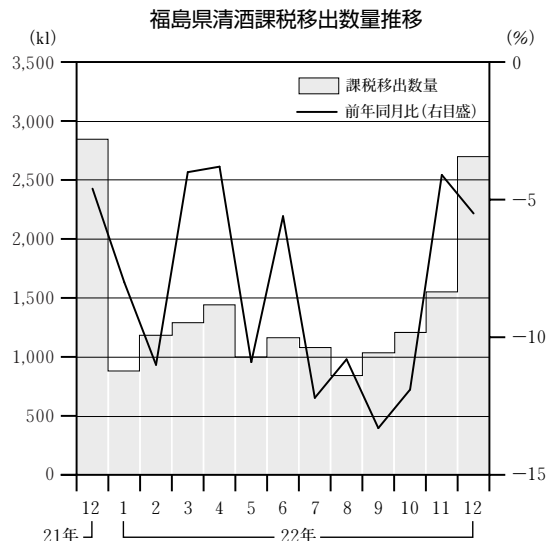
ニット 12月のニットの生産は、春物生産が中心であるが、国内需要の伸び悩みから前年並みの水準で推移した。

大口電力 12月の大口電力販売量は、545百万kw/h（前年同月比+4.0%）と13ヵ月連続で前年を上回った。大口主要販売先を業種別にみると、「非鉄金属」で138百万kw/h（同+14.6%）、「電気機械」で95百万kw/h（前年同月比△8.8%）、「化学」で57百万kw/h（同+0.7%）、「輸送用機械」で56百万kw/h（同+13.1%）、「一般機械」で25百万kw/h（同+8.8%）、「紙・パルプ」で15百万kw/h（同△14.6%）となっており、引き続き非鉄金属や輸送用機械で好調が続いている。

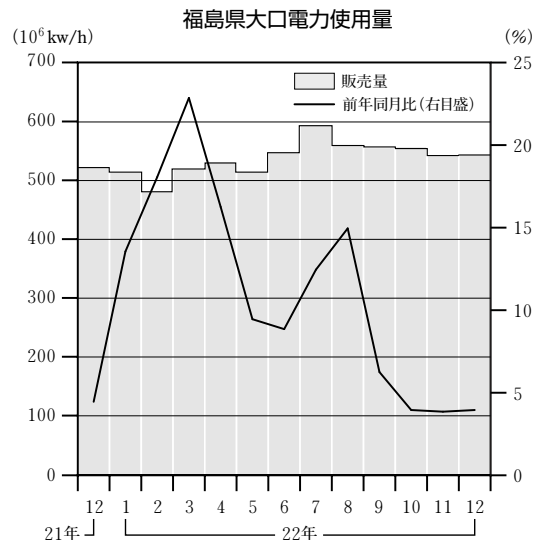
—— 企業倒産 ——

企業倒産 12月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、倒産件数が7件（前年同月比△50.0%）となり、2ヵ月連続で前年を下回った。負債総額は、33億77百万円（同+191.6%）となり、6ヵ月連続で前年を上回った。

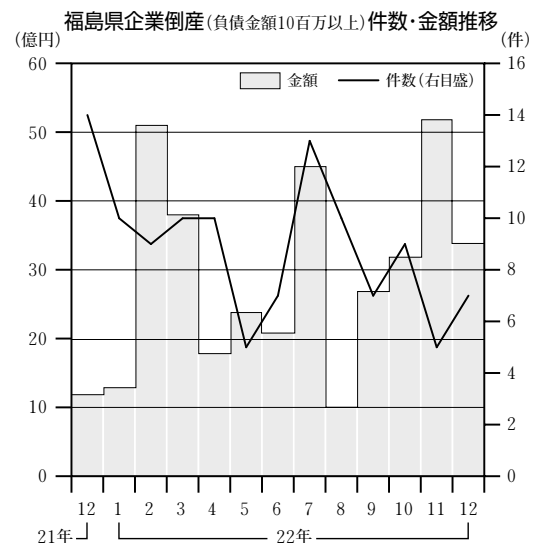
年間累計（2010年1月～12月）では、倒産件数が前年同期比23件減少し、104件（前年同期比△18.1%）、負債金額が同84億98百万円増加し、364億15百万円（同+30.4%）となっている。



(資料：福島県酒造組合)



(資料：東北電力福島支店)



(資料：帝国データバンク福島支店)

倒産主因別内訳は、受注・販売不振が6件、その他が1件であった。業種別内訳は、建設業、製造業が各3件、小売業が1件となった。また、地区別内訳は、県北（本宮市以北）が2件、県南（郡山市以南）が2件、会津が0件、浜通りが3件となった。

金融動向

資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の12月末の預金残高は、6兆6,569億円（前年同月比+2.4%）と46ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、3兆8,311億円（同△0.2%）と14ヵ月連続で前年を下回った。

保証協会 12月の保証承諾は、件数が1,434件（前年同月比△20.3%）、保証金額が139億11百万円（同△26.4%）となった。12末日現在の保証債務残高は、件数が42,685件（同△2.6%）、金額が3,464億15百万円（同△2.8%）となった。また、12月中の代位弁済は、件数が44件（同△55.1%）、金額が3億39百万円（同△29.7%）となり、それぞれ8ヵ月連続で前年を下回った。

雇用動向

雇用動向 12月の新規求人数（原数値）は、7,201人（前年同月比+6.7%）と10ヵ月連続で前年を上回った。新規求職申込件数（原数値）は、8,575件（同△8.0%）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。

新規求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.80倍（前月比+0.05_割）と2ヵ月ぶりに前月を上回った。原数値は0.84倍（前年同月比+0.12_割）と11ヵ月連続で前年を上回った。有効求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.47倍（前月比+0.01_割）となり、2ヵ月連続で前月を上回った。原数値は0.51倍（前年同月比+0.16_割）と9ヵ月連続で前年を上回った。

